

山形大学 施設系技術職員採用試験説明会 業務説明資料【施設部】

- ① 令和5年5月29日（月）18：00～19：00
- ② 令和5年6月5日（月）18：00～19：00



キャンパスの概要と特徴

1. キャンパス概要

○山形大学の概要

本学は、昭和24年に高等教育の機会均等及び学術・文化の地域格差是正を図るため、全国都道府県に設置された新制国立大学の一つとして発足し、県内各地域(村山、置賜、庄内)にキャンパスを有する中規模総合大学である。

教育研究において本学は、県内における高等教育をリードし、さらに、東北地方における学術・文化の主要な拠点の一つとして、また山形の地における各分野の専門家や高度技術者等、有為な人材の育成の場として基幹的な役割を担ってきた。併せて世界と日本における最先端の文化や科学技術の導入及び発信基地として、山形県の経済発展や学術・文化の向上に多大の貢献を果たしてきた。

本学の主要キャンパスとして小白川、飯田、米沢、鶴岡、松波(飯田西含む)キャンパスを、またフィールド実習の場として鶴岡高坂附属農場、上名川演習林、蔵王、また学生寄宿舍、職員宿舍用の敷地等を保有している。

全キャンパスで敷地面積約850万㎡、建物面積39万㎡を保有している。敷地面積では、鶴岡高坂附属農場と上名川演習林の約777万㎡が大半を占めている。小白川、飯田、米沢キャンパスは概ね20万㎡前後。松波、鶴岡は概ね8万㎡の規模となっている。建物面積は、キャンパス毎に比較すると飯田キャンパスが13万㎡で一番多く保有し、次いで小白川キャンパスと米沢キャンパスで10万㎡となっている。

○学部等の構成

学部：人文社会科学部、地域教育文化学部、理学部、医学部、工学部、農学部

研究科：社会文化創造研究科、医学系研究科、理工学研究科、有機材料システム研究科、農学研究科、教育実践研究科

別科：養護教諭特別別科

附属学校：附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校

学士課程基盤教育機構

大学院基盤教育機構

次世代形成・評価開発機構

デジタルトランスフォーメーション推進機構

保健管理センター

医学部附属病院

附属図書館：小白川図書館、医学部図書館、工学部図書館、農学部図書館

教育研究推進組織：産学官連携推進本部、オープンイノベーション推進本部、エクステンションサービス推進本部、知的財産本部、有機材料システム研究推進本部、男女共同参画推進室、ナスカ研究所、多文化共生教育センター、データサイエンス教育研究推進本部

2. 特徴

○東日本でも有数の規模を誇る総合大学

山形大学は、人文社会科学部、地域教育文化学部、理学部、医学部、工学部及び農学部の6学部、修士課程6研究科、博士課程4研究科、専門職学位課程1研究科並びに別科を有している。また、岩手大学を設置校とする岩手大学大学院連合農学研究科に参画しており、東日本でも有数の規模を誇る総合大学である。

○長い歴史と伝統

山形大学は、昭和24年に新制大学に統合される以前からの山形高等学校、山形師範学校、山形青年師範学校、米沢工業専門学校及び山形県立農林専門学校の長い歴史と伝統を受け継いでおり、その時々必要とされる教育研究に対応するように組織改革を行い、これまで多くの有為な人材を社会に送り出している。

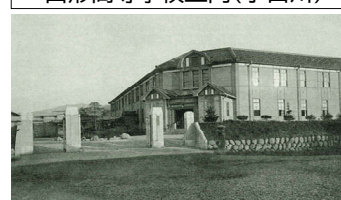
○山形県内に広がる4つのキャンパス

山形大学は、山形市、米沢市及び鶴岡市の3地区にまたがり、4つのキャンパスがある。人文社会科学部、地域教育文化学部、理学部のある小白川キャンパス及び医学部のある飯田キャンパスは、山形県の県都山形市に、工学部のある米沢キャンパスは、米沢織物業に発する工業の町米沢市に、また、農学部のある鶴岡キャンパスは、日本有数の米どころ庄内平野の中心にある鶴岡市にそれぞれ位置し、各キャンパス間をネットワークで結び連携を図りながら、それぞれの地域の特徴を活かした教育と研究を行っている。

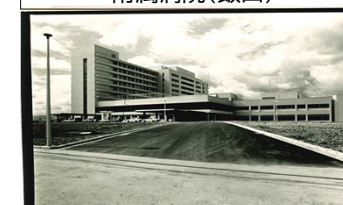
○充実した基盤教育

山形大学では、平成22年度から従来の教養教育を「基盤教育」と改め、4年間の学士課程教育の基盤となる教育を行っている。基盤教育は、広い視野から物事を見る力や変動する社会の中で主体的に考え判断できる力を養うとともに、大学において学問を実践するために必要な基本的能力を身に付けることを目的に充実したカリキュラムで実施されている。このため、全学の教員が、それぞれの専門領域から選りすぐった授業テーマを、様々な切り口で教授することになっている。また、少人数でのセミナーや、情報処理教育、実践的語学教育等により、将来必要な基本的なスキル(技能)を身に付けることを目標としている。

山形高等学校正門(小白川)



附属病院(飯田)

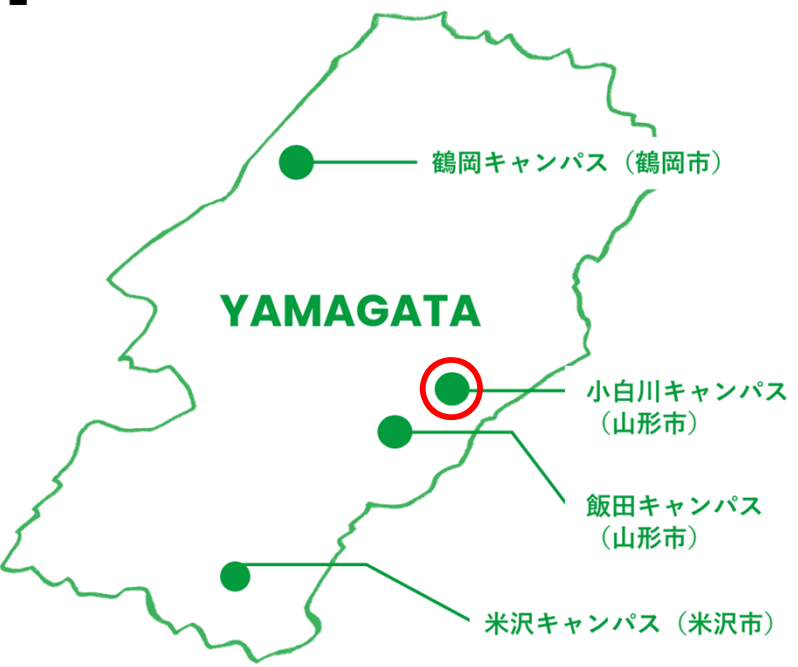


旧米沢高等工業学校本館(米沢)



団地正面(鶴岡)



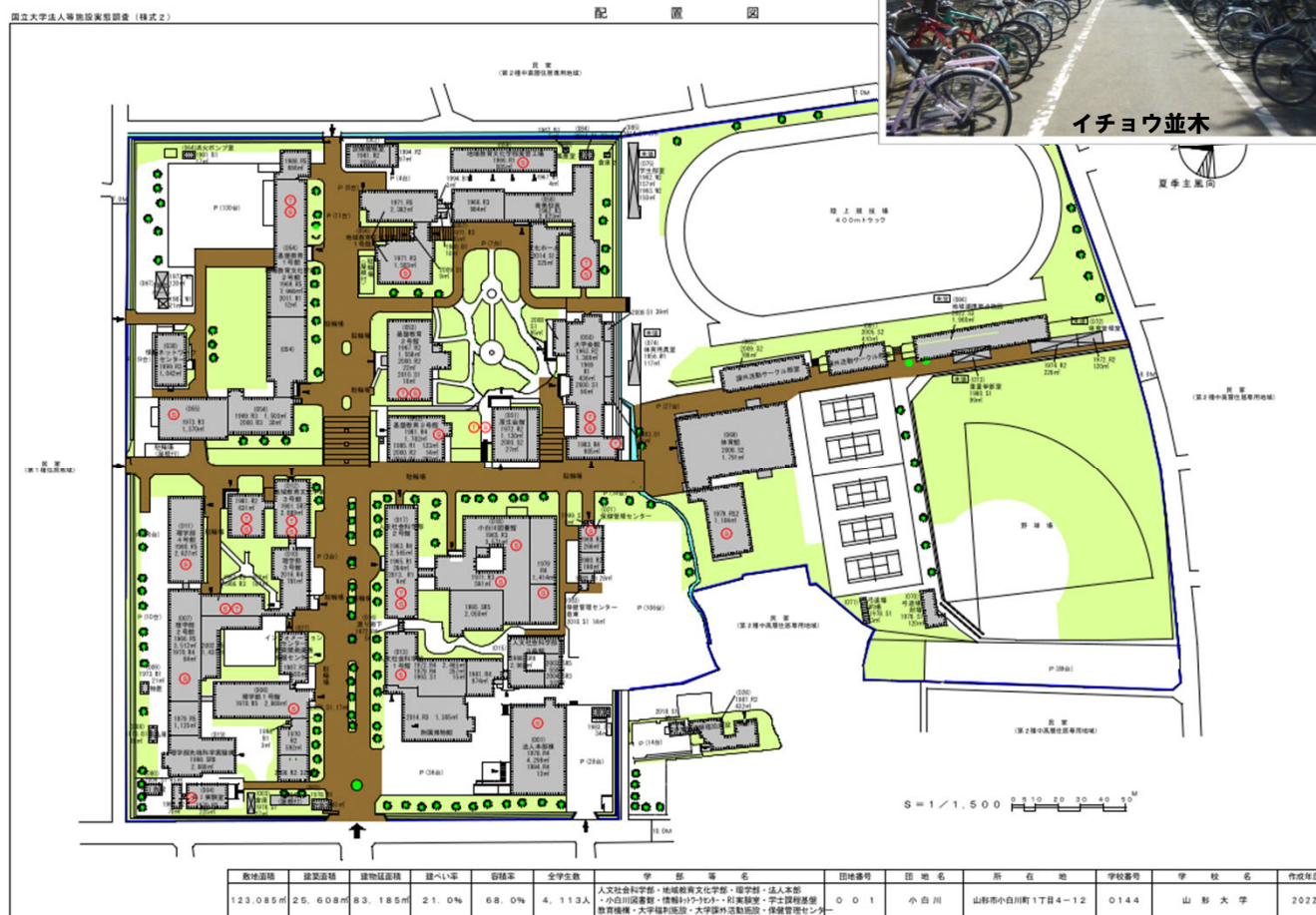


- 【小白川キャンパス】**
- ・人文社会学部
 - ・地域教育文化学部
 - ・理学部
 - ・法人本部 等



概要

敷地面積：123,085㎡
 延べ面積：82,245㎡
 建築面積：26,312㎡





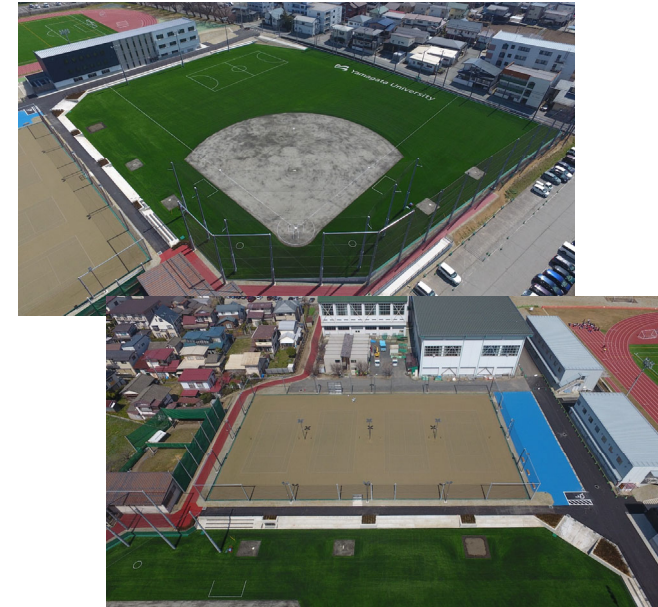
共育・共創みらいセンター
2023年完成

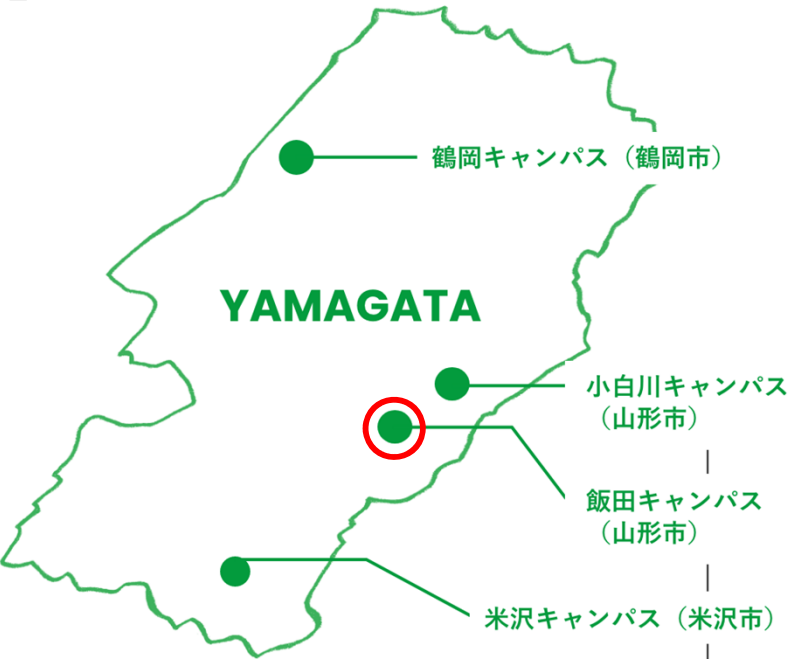


小白川グラウンド
2022年完成

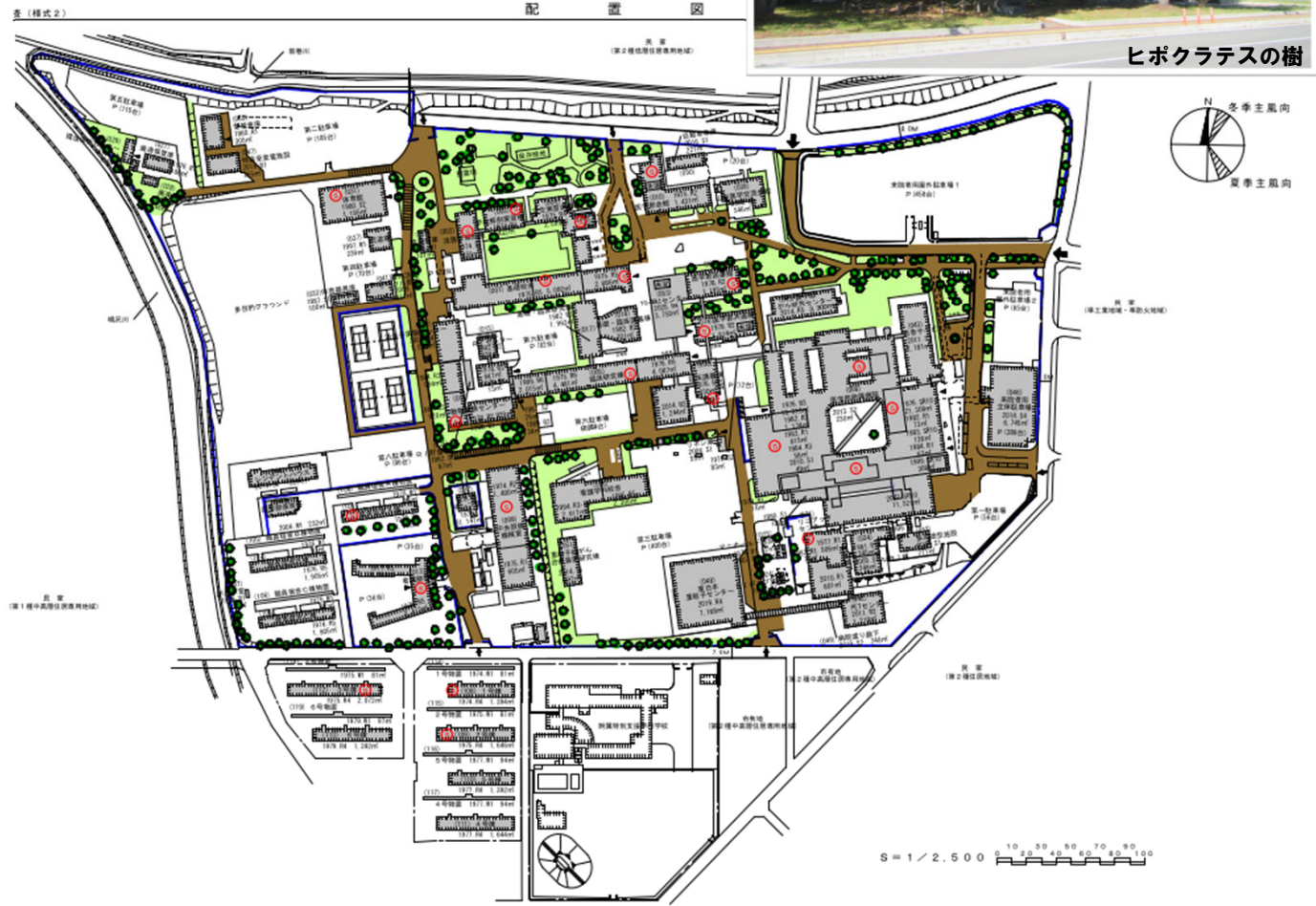


小白川野球場・テニスコート
2023年完成





【飯田キャンパス】
 ・医学部
 ・医学部附属病院 等



概要
 敷地面積: 217,839㎡
 延べ面積: 143,320㎡
 建築面積: 39,843㎡



敷地面積	建築面積	建物延面積	建ぺい率	容積率	全学生数	学部等名	田地区画	田地名	所在地	学校番号	学校名	作成年度
217,839㎡	39,843㎡	144,214㎡	18.0%	66.0%	1,087人	医学部・医学部附属病院 医学部メディカルサイエンス推進研究所 看護科宿舎・健康安全センター	036	飯田	山形市飯田西2丁目2-2	0144	山形大学	2022



東日本重粒子センター概要

2019年竣工
R4
延べ面積 7,160㎡



東日本重粒子センター
2019年 R4 7,160㎡



2階 待合ホール



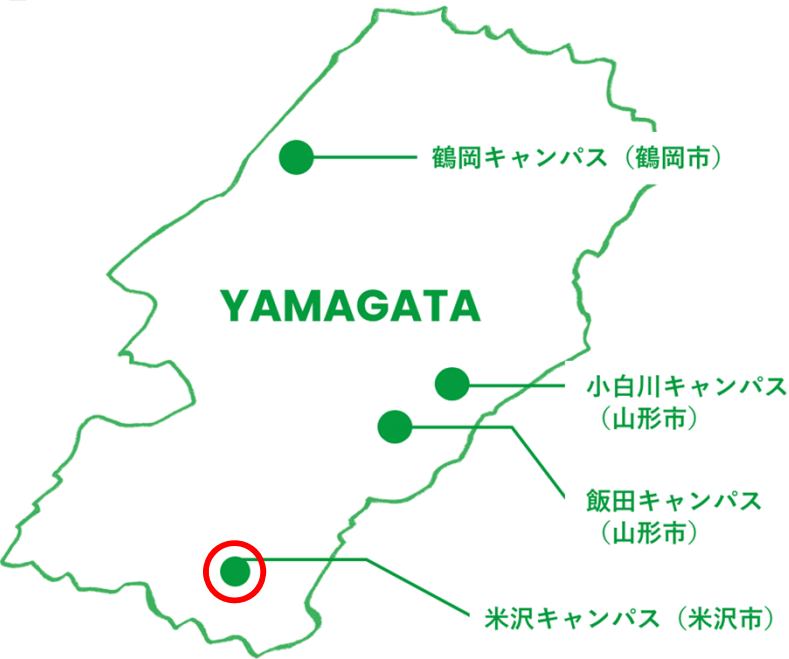
2階 固定照射室



2階 受付ホール



2階 回転ガントリー照射室



- 【米沢キャンパス】**
- ・工学部
 - ・国際事業化研究センター
 - ・有機エレクトロニクス研究センター
 - ・有機材料システムフロンティアセンター
 - ・有機エレクトロニクスイノベーションセンター 等



概要
敷地面積: 98,451m²
延べ面積: 88,655m²
建築面積: 31,728m²



法人等施設実態調査(様式2)

配置図



敷地面積	建築面積	建物延面積	建ぺい率	容積率	全学生数	学部・院名	団地番号	団地名	所在地	学統番号	学統名	作成年度
98,451m ²	31,728m ²	88,655m ²	32.0%	90.0%	3,551人	工学部・資源部・大学発刊施設 国際事業化研究センター・大学設計運動施設 国際事業化研究センター(地共研・VRL・OHA TM -IPP)	007	米沢	米沢市城端4丁目3-10	0144	山形大学	2022



ホール内部

工学部8号館概要
 2020年完成
 R4
 延べ面積 4,220㎡
 改修R4 2,220㎡
 増築R3 2,000㎡



工学部8号館 2020年 R4 4,220㎡



百周年記念会館 2011年 RS2 650㎡



旧米工本館 (重要文化財) 1910年 W2 3,870㎡



【鶴岡キャンパス】
 ・農学部
 ・農学部附属やまがたフィールド科学センター(農場)(演習林) 等



配置図



概要
 敷地面積: 62,506㎡
 延べ面積: 21,798㎡
 建築面積: 7,894㎡



敷地面積	建築面積	建物延面積	建ぺい率	容積率	全学生数	学 部 名 称	所在地	所在地	学 校 名	作成年度
62,506㎡	7,894㎡	21,798㎡	13.0%	35.0%	768人	農学部・図書館・大学福利施設 大学課外活動施設・大学保健管理施設 学術情報基盤センター	010	鶴岡	鶴岡市若菜町1-23	0144 山形大学 2022



農学部2号館概要

2003年完成
R5
延べ面積 3,420㎡



2号館 R5 3,429㎡ (改修)



附属やまがたフィールド科学センター（鶴岡高坂）



附属やまがたフィールド科学センター（上名川）

【附属やまがたフィールド科学センター】庄内の豊かな自然を生かした農場と演習林。稲作・畜産などの農業生産の実践や森林資源の実習に利用されている。

◆国立大学法人山形大学事務分掌規程(抜粋)

(施設部)

第7条 施設企画課においては、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 施設整備事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。
- (2) 施設整備等の予算に関すること。
- (3) 工事等の入札及び請負契約事務に関すること。
- (4) 施設マネジメントに関すること。
- (5) 施設整備の計画に関すること。
- (6) 施設の安全管理に関すること。
- (7) 関連委員会その他会議に関すること。
- (8) その他施設部の所掌事務で他の課の所掌に属さないこと。

2 施設整備課においては、次に掲げる事務を所掌する。

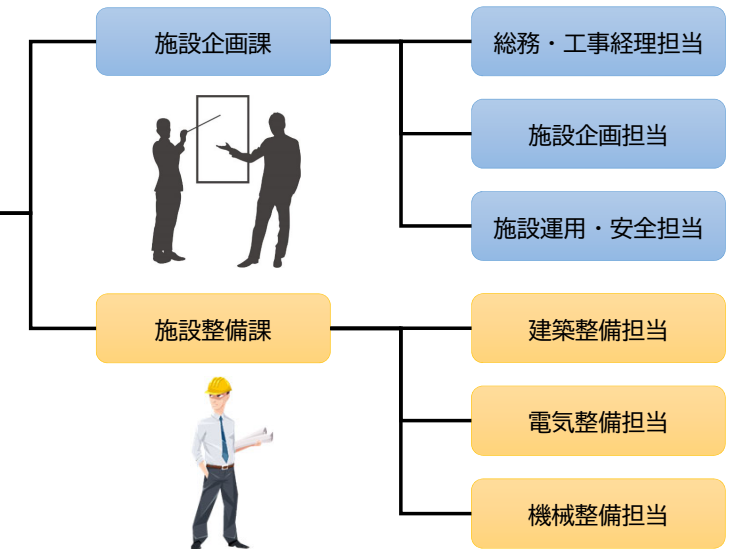
- (1) 施設整備事業執行に関し、総括し、及び連絡調整すること。
- (2) 工事費の実施配分に関すること。
- (3) 工事の設計に関すること。
- (4) 工事費の積算に関すること。
- (5) 工事の施工に関すること。
- (6) 工事の検査に関すること。
- (7) 建物、土地、給排水、暖冷房、ガス、電気及び電話施設等の維持保全に関すること。
- (8) その他施設整備に係る技術的事項に関すること。

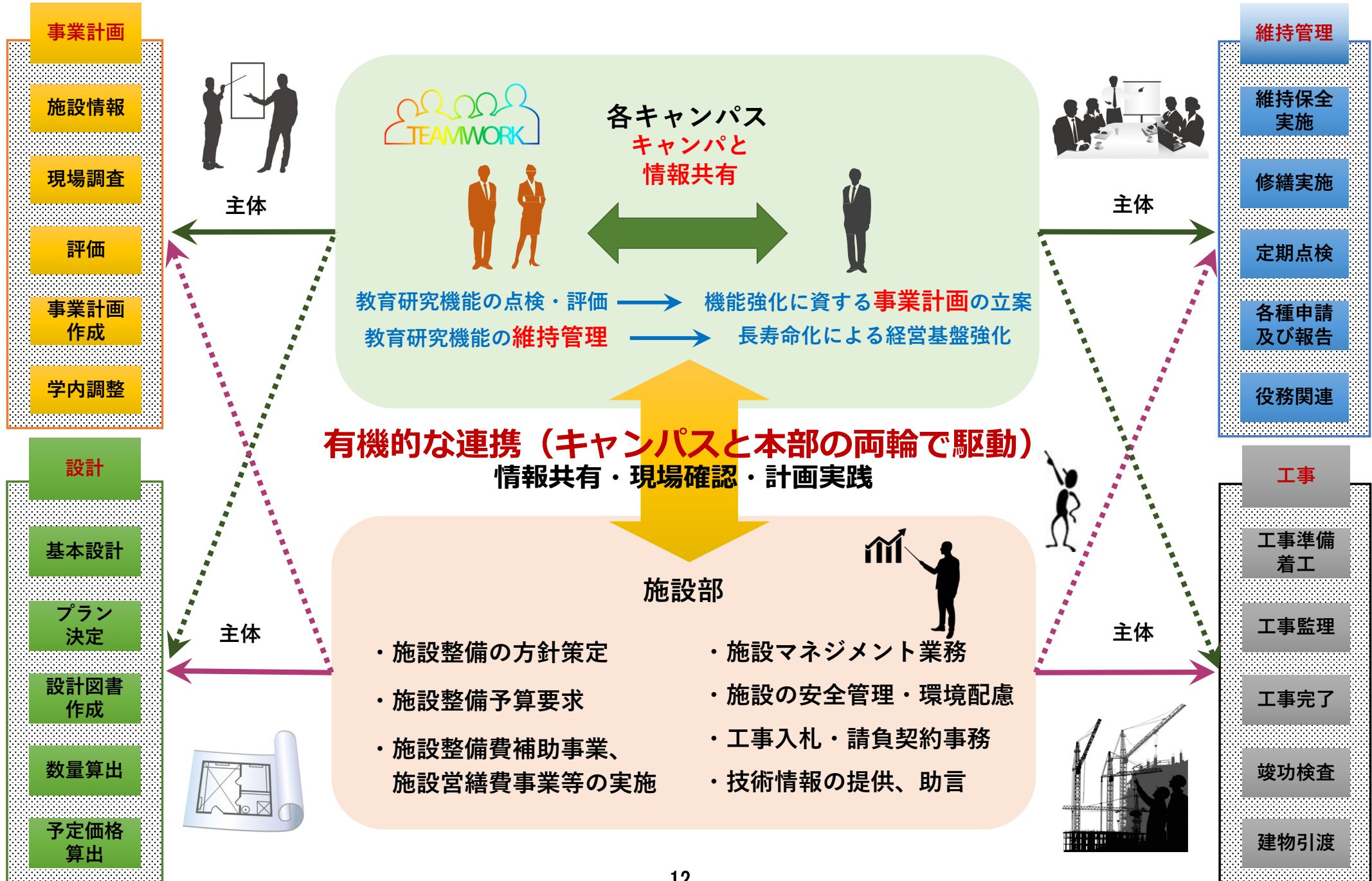
◆本学ビジョンの実現に向けて

- ・安全性の確保
- ・教育研究機能向上
- ・イノベーションコモンズ
- ・カーボンニュートラル
- ・長寿命化
- ・施設トリアージ
- ・経営基盤強化 等々



◆施設部の体制





安全で安心なキャンパスを創出



施設整備・日々の安全管理、事故防止、防犯対策

施設・設備の長寿命化

結果



基本的な評価の考え方

- ・ 安全性の確保
- ・ 教育研究機能向上
- ・ イノベーション
- ・ 長寿命化
- ・ 経営基盤強化 等

- 1. 危険度 高
- 2. 法令等対応 有
- 3. 緊急性・必要性 高
- 4. 老朽・劣化度 高

ひとつひとつ計画的に確実に実施

好循環リノベーション

老朽化対策の推進
 ・ 事故防止対策（安全・安心）
 ・ 創造的改修（機能向上）
 ・ 省エネルギーに資する改修 等

戦略的施設マネジメント
 による大学機能強化

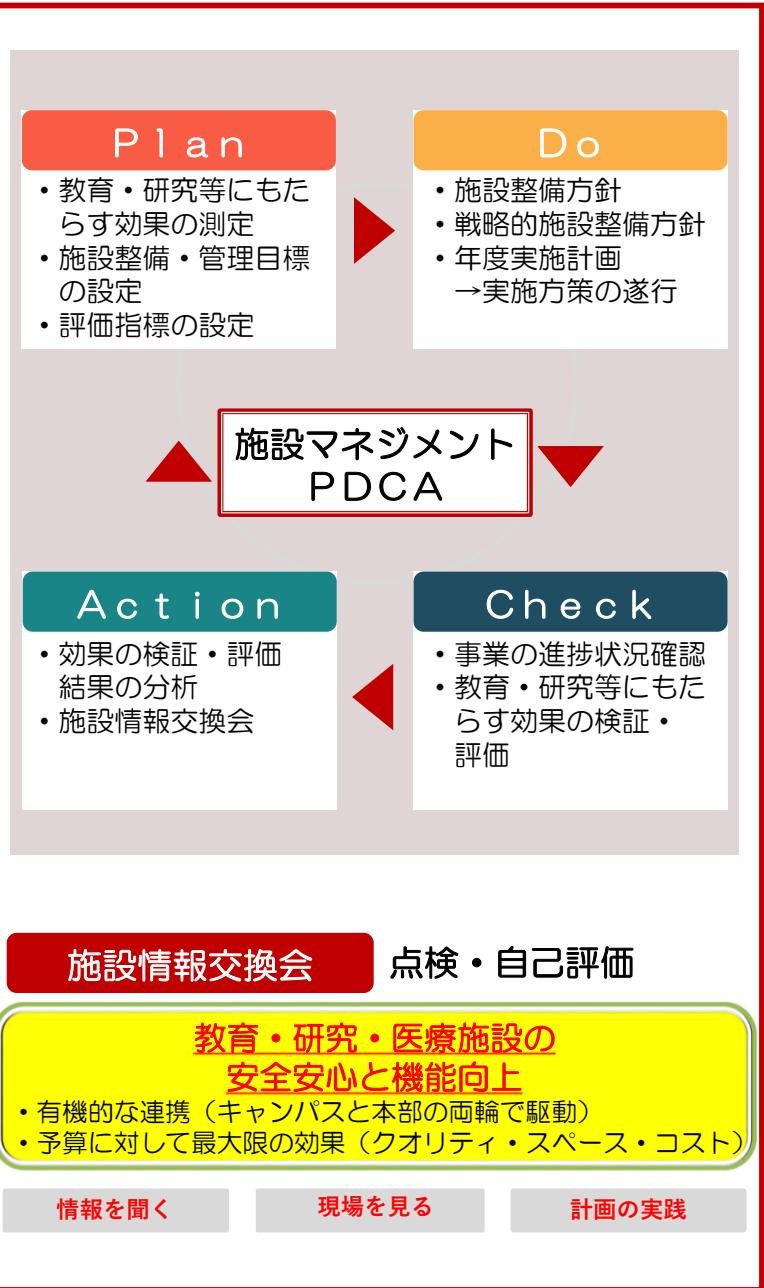
計画的修繕の実施
 ・ 財源確保による計画的な修繕
 ・ インフラ長寿命化計画の推進 等

経営基盤の強化
 ・ エネルギーコスト等の削減
 ・ 集約化による保有面積の削減 等

●施設トリアージ
 ・ 施設の総量の最適化と重点的な整備
 ・ インフラ長寿命化計画
 【個別施設計画】

・トータルコストの縮減
 ・予算の平準化

●事後保全から
 長寿命化保全への転換
 ・ サステイナブルな施設整備と維持管理の実現



好循環リノベーション



老朽化対策の推進

- ライフライン再生等事故防止対策（安全・安心）
- 新たな施設整備の創出を図る創造的改修（機能向上）
 - ・イノベーション創出や産学連携等に資するスペースの創出
 - ・アクティブ・ラーニング・スペースなど学修環境の創出
- 省エネルギーに資する改修

戦略的施設マネジメントによる 大学機能強化

計画的修繕の実施

- 財源確保による計画的な修繕
（コスト削減費用の充当・多様な財源の活用）
- ※インフラ長寿命化計画の策定
（実態把握・優先順位・財源確保・実施）

経営基盤の強化

- エネルギーコスト等の削減
- 集約化による保有面積の削減
- 資産（土地・スペース）の活用



一石三鳥の取組

安全性の確保・教育研究機能の向上・経営基盤の強化



施設整備 施設整備等の主な流れ

